



コミュニケ (日本語訳)

(原文) <http://www.cbd.int/doc/press/2011/pr-2011-12-23-midori-en.pdf>

## 国連生物多様性の10年のための生物多様性みどり賞

モントリオール、2011年12月23日- イオン環境財団および生物多様性条約事務局 (SCBD) の戦略的なパートナーシップのもとで、2012年の生物多様性みどり賞は、国連生物多様性の10年2011-2020における、カギとなる取組みとなるであろう。

岡田卓也理事長のリーダーシップのもと、イオン環境財団は、条約事務局と協力して、2012生物多様性みどり賞を立ち上げることを決定した。2010年に名古屋で開催された第10回締約国会議の会期中に、イオン環境財団とSCBDの間は、一般の認識向上やグリーンウェイブを通じた若者や子供の参画の促進を目的として覚書に署名した。

生物多様性みどり賞は、イオン環境財団の20周年を記念して、2010年に立ち上げられた。またこの年は、国際生物多様性年という歴史的なイベントの年でもあった。(参照: 「生物多様性みどり賞の受賞者、国連本部で発表」 ([www.cbd.int/doc/press/2010/pr-2010-09-30-midori-en.pdf](http://www.cbd.int/doc/press/2010/pr-2010-09-30-midori-en.pdf))、 「ドイツのアンゲラ・メルケル首相が生物多様性の特別賞を受賞」 ([www.cbd.int/doc/press/2010/pr-2010-10-29-cop-midori-en.pdf](http://www.cbd.int/doc/press/2010/pr-2010-10-29-cop-midori-en.pdf)))

みどり賞は、生物多様性の保全と持続可能な利用に関する地域レベル・地球レベルでの顕著な貢献をしたり、生物多様性に関するさまざまな取組みや生物多様性に関する認識の向上に啓発的影響を与えた3名を顕彰するもので、各受賞者には、100,000米ドルの賞金が授与される。

2012生物多様性みどり賞の第一回実行委員会が、イオン環境財団理事長の議長進行のもと、12月20日、東京にて開催され、生物多様性条約事務局長も参加した。実行委員会は、2012年の10月にインドのハイデラバードで開催される条約の第11回締約国会議のハイレベルセグメントにあわせて、授賞セレモニーを開催することに合意した。これに引き続き東京では、受賞者の参加のもと、みどり賞フォーラムが開催される予定

である。また、2012年9月には、東京、モンテリオール、ニューヨークなど、複数の場所で記者会見を開催し、受賞者を発表することも暫定的に予定されている。

岡田卓也イオン環境財団理事長は、「CBDと公益財団法人イオン環境財団との間で締結されたMOU（覚書）に基づいて、生物多様性みどり賞の実施と、環境人材の育成、植樹活動を継続し、CBDと本財団の協力体制を今後もより強固なものにしていきたい。また、本財団は、本賞を実施することにより、2010年COP10において採択された「愛知ターゲット」や、2011年にスタートした「国連生物多様性の10年」の推進に貢献していきたいと考えている。」と述べた。

実行委員会委員の涌井史郎東京都市大学教授は、「生物多様性みどり賞は、10を盛り上げただけではない。この賞を継続させることで、2050年までの目標にむかって地球全体が行動するキーマンに大いなる勇気を与え、人々に生物多様性の主流化を感得させる重要な機会が創造された。分けても愛知目標の短期的達成期間である2020年までが持続的未来を約束できるか否かの分かれ道であり、そうした観点からも、みどり賞の意味づけは大きく、意義深いという実感がある。」と述べた。

実行委員会アドバイザーの黒田大三郎環境省参与は、「生物多様性みどり賞の2回目の実施によって、第1回の受賞者と同様に、生物多様性に関して地道に取り組み、顕著な功績を挙げた方々を顕彰し、広く世界に紹介できる機会が得られることは素晴らしい。この賞が、各地で生物多様性に関し様々な活動を行っている人々に良い刺激と励みを与え、結果として地球全体の生物多様性の保全と持続可能な利用の進展に結びつくことを期待したい。」と述べた。

アフメッド・ジョグラフ生物多様性条約事務局長は、「生物多様性みどり賞は、条約の3つの目的、そして国連生物多様性の10年に対する、イオン環境財団による実にすばらしい貢献である。生物多様性みどり賞は、新たなノーベル平和賞とも言えよう。」と語った。